

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校番号	16
		学 校 名	青森県立鰯ヶ沢高等学校
		全日制の課程	校舎・分校
(1) 学校教育目標	自分で自分の行為を規制し、自己の行動に責任を持つという遵法の精神を培い（自律）、困難にめげず意欲的に新しいものに取り組み、前向きの姿勢で自ら自分の未来を切り拓き（進取）、一致協力して事にあたる（和協）人間を育成する。		
(2) 現状と課題	志願者数の減少が続いており、昨年度、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画により、地域校として配置されることが決定した。これを受けて、活性化協議会を立ち上げ、志願者数の増加のために、活性化の方向性や方策について検討・協議を進め鰯ヶ沢町との一層の連携や協力を積極的に行っている。一方で少人数であることがきめ細かな指導を可能にしていることから、生徒一人ひとりを大切にしたい授業実践による「学力向上」と、生涯学習の観点にもとづいた「自ら学ぶ生徒の育成」を課題として教育活動に取り組んでいる。		
(3) 重点目標	1 基礎学力の定着を図り、学習意欲を高める授業の工夫をする。		
	2 基本的な生活習慣の確立を図り、健全な心身を育成する。		
	3 学校行事や生徒会行事、課外活動を通して、自己有用感・自己肯定感を醸成する。		
	4 保護者・地域への情報発信を図り、開かれた学校づくり。		
(4) 結果の公表	学校Webページ上にて公表する。		
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 学校評議員 3 名、PTA会長 1 名、保護者 3 名 計 7 名	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を高める授業の工夫をする。	①義務教育段階でのつまずきの把握 ②習熟度別少人数授業による細かな学習指導 ③学ぶ意欲を高める授業の工夫と家庭学習の習慣化 ④新学習指導要領に向けた研鑽 ⑤朝学習や新聞を活用した一般常識の定着	①定期考査前には、学習の遅れが出ている生徒に対して担任や教科担任者から特別指導が行われ、学習習慣を身につけさせることができた。進路マップや定期考査前に目標設定や振り返りを行わせることにより、生徒個々の学習習慣の確立、改善へとつながった。 ②生徒の理解力に即した教育課程を編成し、少人数を生かした一人ひとりに目の行き届く授業を展開することができた。 ③互見授業週間における研究授業の実施と参観を通して授業改善を図ることができた。ICT環境が整備され授業等に活用する場面が増えてきた。今後は、ICTを活用した授業等の実践例を共有し、授業の工夫を推進していきたい。家庭学習時間調査は、実施しなかった。 ④新学習指導要領に基づく各教科の指導と評価について、教育課程委員会で作成し、教科担任者の意見を反映した新たな評価基準を作成することができた。 ⑤朝学習において小テストを実施し、基礎学力の定着を図った。徐々に基礎学力が定着してきており、学習に向かう姿勢が育まれた。各クラスに毎日新聞を置くことで、新聞の有効活用と一般常識を身に付けさせることができた。	A	・保護者による学校評価アンケートから、「基礎学力、学力の向上に対する指導が行われていた」、「資格取得に積極的に参加させる指導が行われていた」については、昨年度と同様に高い評価である。特に1年生については、ほぼ全員が「そう思う」と回答している。	・多様な生徒の希望を尊重し、個に応じた授業、わかる授業など新学習指導要領を踏まえた授業改善に努めるとともに、効果的な教育課程の編成と校内研修の充実を図る。 ・ICTを活用した授業実践の充実と日常業務での効果的な活用を目的として、校内外の研修を充実させ、実践事例の蓄積と共有を図る。 ・生徒の実態や教科担任者の意見を取り入れ、より充実した評価基準にする。 ・朝学習や放課後の進学講習を通して、生徒の学習意欲を育て、基礎学力の定着や学力の向上を図る。

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
2	基本的な生活習慣の確立を図り、健全な心身を育成する。	①端正な服装・容儀、元気な挨拶、落ち着いた教室環境の整備 ②集会や儀式的行事を活用した所作・礼儀作法の会得 ③ネット、スマホ等の情報モラルの徹底 ④「豊かな心」の育成といじめの無い人間関係作り ⑤健康教育の推進による健全な心と体の育成	①登校指導やその場指導を通じ、明るくしっかりとした挨拶を励行した。登校時だけではなく、校内での挨拶もきちんとしており、場面での挨拶は習慣化されている。全教職員の共通認識の下、礼法や授業態度、容疑や携帯電話の使用などのついて適切な行動を促し、学習に集中できる環境づくりを行った。 ②集会や行事等における所作や礼儀作法については、日常の指導と合わせその都度指導して生徒の態度は良好である。 ③7月にスマホケータイ安全教室を開催した。情報モラル教育については、各ホームルームや教科・情報においても指導していて、大きなトラブルはなかった。 ④いじめの早期発見・早期対応のため、生徒・職員には毎月、保護者には学期毎にいじめアンケートを実施した。今年度はいじめ認知が1件あった。いじめ防止委員会で事実確認、今後の指導方法等を話し合い、全教職員の共通理解の下、適切な指導を行った。また、アンケートや口頭による相談や申告に対し、迅速に対応して生徒に寄り添う指導ができた。支援が必要な生徒の校内での共通理解と手立てについて情報交換会を実施した。生徒、保護者に対してはスクールカウンセラーによる面談を2回実施した。全体の2月までの出席率は、99.6%である。 ⑤保健だよりを発行し健康増進への啓蒙を図った。学校歯科医の支援のもと、隔週1回のフッ化物洗口(全校生徒の希望者を対象)を実施した。虫歯の罹患率は減少傾向である。校内外の安全点検を毎月実施し、危険箇所の修繕に努めた。避難訓練は3回実施した。	B	・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「普段の学校生活における生徒の挨拶や服装・態度の印象はいかがですか」、「校外における本校生徒の挨拶や服装・容儀、交通ルール遵守等の状況はいかがですか」については、高い評価である。 ・保護者による学校評価アンケートから、「非行やいじめ等の未然防止・早期発見に取り組んでいた」、「いじめ問題に対する基本方針が学校と保護者で共有されていた」については昨年度より高い評価である。	・玄関前の登校指導の取組を継続し、生徒の状況把握とコミュニケーションの場として活用していく。 ・いじめに関する取組や学校いじめ防止基本方針に関する事項について、保護者への説明を徹底するため、入学予定者説明会の時点から入学予定者とその保護者に対する説明機会を設け、さらにPTA総会においても説明をする。 ・情報モラルに関する指導では、生徒の細かな情報を全教員で共有し、ホームルームや各教科での指導に役立てるよう意識付けをしていく。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策をしっかり行い、生徒・教職員の健康の保持増進を図る。
3	学校行事や生徒会行事、課外活動を通して、自己有用感・自己肯定感を醸成する。	①生徒会行事や部活動における自主・自立の養成 ②課外活動・ボランティア活動を通じたコミュニケーション能力の育成 ③地域貢献活動を通じた郷土愛の醸成 ④総合的な探究の時間を活用した「生きる力」の育成 ⑤資格取得挑戦の励行と合格率上昇	①小中高連携及び町内保存会による流し踊りを実施した。参加人数が約200名で盛大に開催することができた。各校との連携と地域との交流を深めることができた。学校祭やスポーツ競技大会においては生徒会役員を中心に準備を進め開催することができた。生徒会行事は生徒会役員中心に生徒主体で計画・運営された。部活動においては、生徒数減少に伴い、運動部は陸上競技部だけが高校総体に出場した。部員が0人の部活動があり、団体競技は次年度以降も活動がむずかしい状況である。 ②③町内の清掃活動、白神ブナ植樹ボランティア体験、インターンシップ、SBP研究会などの活動をとおして、達成感や自己肯定感が醸成できた。また、それらの活動や鯉ヶ沢甚句「流し踊り」を通して郷土愛が醸成できた。 ④3年間を通して、地域探究、IT教育、キャリア教育、進路研究、生と性を考える教室といったテーマを設定して、町の協力や連携のもとに計画的に実施し、生徒の生きる力の育成につながっている。 ⑤各種の検定や模擬試験等の受検費用の一部を学校後援から補助していただき、生徒が受検しやすい環境を町の協力で実現できた。生徒にとっては大変有難く、意欲向上につながるものである。多くの生徒が各種検定に挑戦し多くの資格を取得することができた。資格取得の意欲向上につながっている。	B	・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「流し踊りは、小・中・高合同で実施しましたが生徒の達成感につながったと思いますか」については、高い評価である。 ・学校評議員及び学校関係者評価委員、保護者による学校評価アンケートから、生徒会行事・ボランティア活動・インターンシップ・町との連携事業に関する評価については、高い評価である。	・生徒数の減少に伴い、行事の計画や運営方法に工夫が必要である。生徒・教職員が協力する中で、生徒の主体性を発揮させるようにする。部活動においては、団体競技の部は存続が厳しいと判断する。個人競技の部は継続し多くの大会で活躍できる選手を育てる。 ・総合的な探究の時間を含め、さまざまな活動を通して、生きる力の育成を継続していく。引き続き、町との連携・協力も継続していく。 ・学校後援会からの受検料の補助制度を活用し、生徒の資格取得へのチャレンジを推奨していく。放課後講習を個別に実施し、資格取得に向けた意欲と能力を育成する。

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	
4	保護者・地域への情報発信を図り、開かれた学校づくりに努める。	①学校Webページ・広報誌の充実 ②地元住民・中学生への積極的な広報活動 ③保護者の積極的な行事参加 ④新聞社への記事掲載依頼 ⑤学校公開の実施 ⑥町・地域団体との連携事業の継続	①②学校Webページは行事のたびに更新し、迅速な情報発信に努めた。また、緊急時においては緊急配信メールで緊急連絡等の発信を行った。例年通りPTA新聞「舵」を発行できた。「鰺高通信」を町広報誌に毎月掲載し、本校の活動を町民に紹介することができた。体験入学では、SBP研究会の取組成果を発表することができた。中学校における学校説明会では、本校職員の他に役場職員であるOGが動向し学校の魅力を伝えることができた。 ③コロナ禍にありながらも実施できた学校行事等では保護者が来校し協力を得ることができたが、一声運動への参加や豚汁支援への協力者は少ない状況であった。 ④「流し踊り」、「活性化の方向性」、「ドローン授業」「ゴルフ部設立」、「青森リゾートの協定」など多くの取組みを新聞やメディアに取り上げてもらい鰺ヶ沢高校の魅力を伝えることができた。 ⑤授業公開週間を6月に設けた。小中学校教員、同窓会役員等12名が来校し授業の様子を参観した。また、中高連携協議会を実施し、有意義な情報交換ができた。 ⑥町の支援によりSBP研究会活動をより発展させることができた。また、体育祭や流し踊り等の行事においても、町や地域保存会との連携を大切にしながら実施することができた。今年度からの取組みであるドローン授業では、鰺ヶ沢高校の魅力ある教育活動の1つとして成果をあげることができた。	A	・保護者による学校評価アンケートから、「学校ホームページやメール、広報、公開授業などを通して、保護者・地域へ学校情報の発信が行われていた」、「PTA活動（PTA新聞「舵」の配布、）の参加率を高めるための活動が行われていた」は、昨年度より高い評価である。 ・学校評議員及び学校関係者評価委員による学校評価アンケートから、「広報あじがさわの本校のページ「鰺高通信」は学校を紹介するに十分だと思いますか」は、高い評価である。「学校ホームページ」「公開授業週間」に関する評価では、高い評価であったがわからないという評価が1名の委員からあった。	・コロナ禍における保護者の協力に関しては、感染状況等を考慮した対応をとりながらも、積極的参加をお願いする。 ・地元や近隣地域及びその中学生に対する広報や情報発信に一層力を入れ、鰺ヶ沢高校の魅力を伝え志願者数の増加に取り組んでいく。 ・町との連携協定にもとづいた取組により、多くの行事や課外活動に協力と支援を引き続き依頼し、学校の活性化に努める。
(11) 総括		生徒は挨拶がしっかりしていて、問題行動はなかったがいじめの認知が1件あった。 少人数の利点を活かしたキメの細かい指導を全教職員で行っており、3年生生徒については、全員の進路が決定し、その指導においても全教員による丁寧な指導を実践している。公務員希望者にはオンライン講座や公務員模試を実施し2名の合格者を出し成果をあげた。また、国公立大学にも6年連続で合格者を出し成果をあげた。 今年度はコロナ禍にありながらも学校行事や生徒会行事は、感染予防対策を十分講じた上で実施することができた。その実施にあたっては、町との連携協定に基づき、町から多くの協力をいただいている。特にSBP研究会の活動については、SBP事業に基づいた支援や協力があって活動ができており、8月には、「全国高校生1億円プロジェクト」の幹事校として出展に向けたWeb会議等による企画や当日の運営を立派にやり遂げた。 今後は、令和6年度入学選抜の志願者数を増やすべく、本校の魅力を外部へ発信していくかが大きな課題である。地元や近隣、全国の中学生に選ばれる学校づくりを進めていく。				